

# おきなわ市日誌



## 6/15 AI(人工知能)がお答えします

本市公式ホームページで、新型コロナウイルスに関する質問に自動で回答する「AIチャットボット(自動会話プログラム)」を提供している株式会社HENZAの平安座朝弥代表取締役等が市役所を訪れました。

平安座代表は「AIチャットボットは、質問が増えるほど学習し対応が改善される。たくさんの人に活用してほしい」とPRしました。



## 6/19 市職員へ真心込めたおいしい贈り物

豚熱(CSF)や新型コロナウイルス対策のため、昼夜を問わず勤務した市職員の労をねぎらいたいと、市中央にある自家製ハム・ソーセージ専門店TESIOの嶺井大地代表が市役所を訪れ、桑江市長に自家製ホットドック50個を寄贈しました。

贈られたホットドックは、豚熱(CSF)等の対応にあたった経済文化部職員に配られました。



## 7/1 犯罪・非行のない明るいまちへ

犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない社会を築こうとする「第70回社会を明るくする運動」のメッセージ伝達式が市役所で行われました。

伝達式では、中部保護区保護司会の島袋邦男会長等が安倍晋三内閣総理大臣等のメッセージを読みあげ、桑江市長等へ手渡しました。

## 7/1 危ない運転はダメ! シーサーもマスクで啓発

あおり運転等が「妨害運転罪」として取り締まりの対象となったことを受け、危険な運転や飲酒運転の根絶とあわせて、新型コロナウイルス感染症の終息を願い、沖縄警察署玄関横に設置されているシーサーにマスクが着けられました。



伊藤竜之地域交通官は「県民一人ひとりが交通安全を意識し行動に移してほしい」と話しました。

## 商店街のニューフェイス

沖縄市内商店街の新たな仲間をご紹介します。

第4回目は、昨年11月10日にオープンしたサンシティ商店街にある「[a]narchy」をご紹介します!

ロンドン・ロサンゼルス・原宿で働いた経験を活かした個性的なカラーやカットを得意とする美容室です。

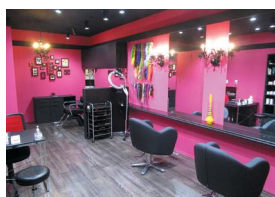
他では叶えられない髪型を実現させたい方は、行ってみたいはかがですか?初回割引サービスがありますよ!



清潔なシャンプー台



豊富なカラー剤



ピンクを基調とした内装



### [a]narchy

住所: 中央1-8-1  
定休日: 月曜日  
営業時間: 12:00~20:00  
TEL: 098-989-3577  
Instagram: anarchyinthejp  
※完全予約制  
(予約はInstagramにて)  
お問い合わせ: 商工振興課 内線(3225)





7/10 高校生のアイデアで  
地元食材が華麗に変身

全国の高校生がオリジナルレシピの腕を競う「ご当地！絶品うまいもん甲子園」の出場を目指し、美里工業高等学校調理科3年生の13チーム39人が、市の農水特産物を使ったアイデア料理を試作しました。

沖縄市農水特産品アイデア創出事業として行われたもので、原価、価格、調理時間等を意識してチームごとに作成したアイデア料理のレシピを元に、ハンダマ、ゴーヤー、紅芋、豚肉等の地元の食材を使い、試行錯誤しながら調理しました。

調理後は、お皿の周りに花やシーサーを飾ったり、お皿の下にカラフルな布を敷いたり、作った料理がおいしく見えるよう工夫をして撮影し、「美味しい」、「価格が安すぎる」、「白米の量が多すぎる」等と感想を話しながら、試食も楽しみました。

7/4 新教育委員会委員

沖縄市教育委員会委員の羽地節子氏(はねのせつこ)が任期満了により退任し、7月4日付で下地輝美氏(しもじのあけみ)が就任しました。

任期は令和6年7月3日までの4年間です。

7月6日に市役所で行われた辞令交付式で、桑江市長から任命を受けた下地氏は「市の教育行政の充実発展に力を尽くしたい」と意気込みを話しました。



▲沖縄市教育委員会委員に就任した下地輝美氏



6/12 新収藏品寄贈者へお礼状を贈呈

沖縄市立郷土博物館に、昨年も多彩な品々が寄贈され、そのお礼状の贈呈式が行われました。

昨年度に寄贈していただいたのは14名の個人と古謝・宮里自治会の2団体。長年地域で活用された古謝の神獅子、宮里自治会からの柳行李(やなぎざぶろ)、改元関連新聞など60点の貴重な品々が、7月5日まで、新収藏品展でお披露目されました。



博物館に来て、興味を引く道具があったら、ぜひ学芸員に「これどうやって作ったの?」、「どうやって使ったの?」と聞いてみてください。私たちは喜んでご説明します。  
(学芸員 川副)

博物館に来て、興味ができます。汗だくにはなりますが、体験して身に着けたことは、忘れることはありません。

このナタは、沖縄市ですでに職人さんがいなかったら、石垣島まで作り方を学びに行き作製しました。学芸員の体に合わせて作ったので、七夕の竹取りや、森に入る時の草刈りに大活躍しています。  
モノづくりは、頭で考えるだけでなく、実際に体験すると、博物館に来てくれた人に、わかりやすく説明ができます。

沖繩市立郷土博物館では、学芸員が「プチ修行」で職人さんに弟子入りすることがあります。実際に体験することで、沖繩の失われつつある技術を実際に学ぶことができるからです。

こちら

沖繩市立郷土博物館

